

研修報告 D班3グループ

テーマ「主体性の高い人材育成 ～学生からの情報発信～」

1. テーマ選定理由

(1) 大学の役割

まず、大学の役割としては、主に3つの分野（教育機関、研究機関、地域連携）について議論した。その結果、最も重視すべき役割は、教育（人を育てる＝成長させる）であると設定した。さらに、「人が育つ」には、成長したいと自身に思わせること、つまり、「主体性」が重要であるとの結論に至った。

(2) 大学（大学生）の現状

次に、大学生の特徴について議論した結果、「大人しい、消極的、受け身」等のキーワードが挙げられた。そのため、最初のステップとしては、主体性の大切さに気づき、目覚めさせる仕組みが必要であるとの意見でまとまった。また、魅力的（興味を持つ、また、利益になる）な仕掛けをし、意欲がない学生の動機付けをすることが肝要であることに着目し、学生は、Web上（ツイッターやフェイスブック等）で、自己の意見や情報を自ら発信している者が多いことから、学生から情報発信をさせる設定で、プロジェクトを構築していくこととした。

以上のことから、「主体性の高い人材育成 ～学生からの情報発信～」というテーマを設定した。

2. 問題点の立ち回り

上記テーマを設定した上で、問題点の立ち回りとして「そもそも学生の主体性は低いのか」、「学生は主体性を求められて来たのか」等について議論した。新学習指導要領が小中高で段階的に改定され、学校教育法第30条2項においても、「主体的に学習に取り組む態度を養うこと」と表記されている。そのため、大学としても今後さらに主体性の高い人材育成が重要となる。

前項の場合においては、生涯にわたり学習する基礎が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはくくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

（学校教育法第30条第2項）

3. 解決策の検討

前述した特徴（大人しい、消極的、受け身）のある学生にとって、主体性を発揮する事は、想像以上にハードルが高い。そのため、最初の一步のハードルを低く設定し、まずは経験する事で能力と自信をつけ、モチベーション向上に繋げる、また、もう一步踏み出すことへの抵抗感を少なくする仕組みを設定する事が重要となる。段階的に主体性を養っていく事で、主体性の高い人材育成に繋げる方法を検討することとした。

4. 大学イノベーションの提案

(1) テーマ

「学生の成長記録簿の公開スペースの設置」

成長記録簿：大学活動（下表）を通して身につけた知識・経験の記録をまとめたポートフォリオ

	公開内容(具体例)
学内活動	・レポート ・ゼミ動画 等
学外活動	・インターン ・興味ある分野(ボランティア等)の発表 ・講師として地域に発表(MOOC)

(2) 目的

成長記録簿として可視化する事により、学生自らの成長を自覚させる。

情報発信を通して外部評価（フィードバック）を得る事で、気付きを与える。

(3) 提案における課題・導入効果

課題

情報リテラシーの問題（ex.インターンシップ結果を情報発信する場合、企業情報が含まれるため、不特定多数への公開は問題となる。）

解決策

(a) 公開範囲の制限（情報発信する活動内容に応じて公開範囲を制限する）

(b) 情報リテラシー教育の実施

導入効果（メリット）

導入効果については、下記3視点から具体的なメリットを整理した。

対象者	具体的なメリット
学生	主体性の向上、成長確認、企業等外部に向けてのアピール材料
大学	学生が成長する事で大学のブランド力の向上
地域・社会	大学資源の活用(知、人)、企業側の新たな選定基準

5. 総括

創造・立案・解決能力が求められる社会において、主体性は最も求められる要素の一つである。社会に貢献できる人材育成のため、学生が主体性を発揮できる環境を整備すること、そして学生のみならず、教員及び職員が主体性をもって大学改造していく姿勢が緊要である。